

WEEKLY SIGNAL

平成30年7月27日(金) 1434号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	7/30(月)	7/31(火)	8/1(水)	8/2(木)	8/3(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 200	△ 1,000	ト ン	ト ン	ト ン
財政他	+ 1,900	+ 21,000	+ 25,000	△ 67,000	△ 20,000
資金需給	+ 2,100	+ 20,000	+ 25,000	△ 67,000	△ 20,000
主な要因	国庫短期証券 発行・償還(3M)	財投機関向け貸付け	国債発行(2年)	法人税・ 消費税・ 保険揚げ	国債発行(10年)
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,900 CP等買入 △ 200 国債補充供給 + 300				
オベスタート	国債買入 + 10,600 共通担保(全店) + 2,600	CP等買入 + 2,000			
(日本)	金融政策決定会合(31日まで)	経済・物価情勢の展望(展望レポート)の公表 黒田日銀総裁、定例会見 当面の長期国債等の買入れの 運営について 失業率(6月)	日本製造業PMI(7月)	雨宮日銀副総裁、講演(京都市) マネターヘース(7月)	金融政策決定会合の議事要旨 (6月14日、15日)
(海外)	米 中古住宅販売成約指数(6月) 欧 ユーロ圏景況感指数(7月) 欧 ユーロ圏消費者信頼感指数 (7月、改定値)	米 FOMC(8月1日まで) 米 消費者信頼感指数(7月) 欧 ユーロ圏GDP(4-6月、速報値) 欧 ユーロ圏CPI(7月、速報値) 欧 ユーロ圏失業率(6月)	米 FOMC声明発表 米 ADP雇用統計(7月) 米 ISM製造業景況指数(7月) 欧 ユーロ圏製造業PMI(7月、改定値)	米 新規失業保険申請件数 (7月28日終了週) 米 製造業受注(6月)	米 貿易収支(6月) 米 雇用統計(7月) 米 ISM非製造業総合景況指数 (7月) 欧 ユーロ圏総合PMI(7月、改定値)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.050 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.050 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、387兆6,700億円から始まった。その後は、国庫短期証券・国債買入オペを主に増加し、週末には389兆7,000億円となった。

無担保コールON物は、先週に引き続き資金調達ニーズが弱く、週を通して軟調な地合となった。同加重平均金利は△0.071~△0.068%で推移した。ターム物は1~2W物を中心に、△0.05%台での取引がみられた。

日銀は23日、国内債券市場で新発10年物国債の利回りが一時0.09%まで上昇したことを受けて、指し値オペを実施した。なお、27日にも同10年債利回りが一時0.105%と約1年ぶりの高水準となったため、今週2回目となる指し値オペを実施し、長期金利上昇を抑制した。

来週は国内では、日銀金融政策決定会合(7月30、31日)、海外では、米連邦公開市場委員会(FOMC)(7月30日、8月1日)などが予定されている。

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.170 ~ △0.150
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約1兆9,200億円で、週間償還総額の約2,600億円から大幅に増加した。発行市場は、5・10日案件と月末日スタートの発行が重なり、また大型案件も多く活況であった。週末の発行市場残高は19兆2,000億円強と、過去最高水準となった。発行レートは、一部の希少銘柄を除き、発行増の影響でわずかに上昇し、浅いマイナス~0%近辺の出合いであった。26日、CP等買入れオペが2,000億円実施された。市場残高が増加している影響もあり、オペでは一定量の売却ニーズが生じたことから、按分レートは△0.001%と前回比(△0.003%)で上昇した。来週の償還総額は、1兆2,400億円程度となっている。月初、発行は少なくともやや閑散な市況が予想される。発行レートは、市場残高が積みあがっている事もあり、発行頻度の高い銘柄ではややレートが上昇する動きとなっている。今週に引き続き、多くの銘柄で浅いマイナス~0%近辺の出合いであろう。

<TDB>

27日に行われた3M773回債も最高落札レート△0.1443%(前回債△0.1523%)、平均落札レート△0.1531%(同△0.1579%)と前回債からマイナス幅がやや縮小した。セカンダリー市場ではやや買いが見られ、新発3Mが△0.165~△0.155%程度と、入札水準より強めの出合いが見られた。1Yは△0.145%近辺で推移した。

来週は8月3日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

銘柄先決めGCは週初△0.15%~△0.13%から始まり、以降週央にかけてレート低下。26日受渡しでは、△0.20%近辺で多く取引された。週後半は△0.165%~△0.16%が出合の中心となった。SC取引では10年350回債と351回債のbidが多く、350回債は週初△0.20%台前半~△0.10%台後半。25日の国債買入れオペ後△0.60%近辺~△0.50%台半ばまでレートが低下した。351回債は週末△0.60%台半ば~前半で一部取引された。その他2年386・387・388・389・390回債、5年133・134・135・136回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351回債、20年162・163・164・165回債、30年57・58・59回債、40年9・10・11回債などに引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。